

会議名称	第2回山口市協働のまちづくり市民会議
開催日時	平成19年8月23日(木曜日) 午後6時30分～午後9時00分
開催場所	山口総合支所3階 第10・11会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	辻正二委員、坂本俊彦委員、渡辺洋子委員、清水春治委員、井出崎小百合委員、國吉正和委員、久保田美代委員、藏本信江委員、曾田元子委員、豊川智恵委員、中村保男委員、中山美穂子委員、原田章子委員、原田雅代委員、平井多美子委員、福田嘉夫委員、益田徳子委員、山根伊都子委員、山本貴広委員、山本豊委員、若崎啓一委員(21人)
欠席者	加藤結花委員、西村美紀委員、西村律子委員(3人)
事務局	安光協働推進課長、山田主幹、豊田主任主事(3人)
議題等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前回会議の確認について</li> <li>2 市民会議の運営方法について</li> <li>3 グループ討議     テーマ「まちづくり」</li> <li>4 全体発表、まとめ</li> <li>5 次回開催について</li> <li>6 その他</li> </ol>
内容	<p>&lt;事務局&gt; 最初のあいさつ 本日の配布資料の確認</p> <p>【1 前回会議の確認について】</p> <p>&lt;会長&gt; 今日が第2回目で、皆さん方だんだんと慣れてきたのではないかと思います。前回の会議の後に、8月の8・9日で研修会があり、実務的な感じですっと考えておられる方からのお話だったので参考になるところがあった。今後、こういう研修会とか勉強会みたいな事をしながら、やっていかなければと思う。</p> <p>前回の会議では第一回ということで、委員皆さん方の自己紹介によって相互理解することが一つありました。それから、渡辺市長から市民会議に寄せる期待みたいなものを幾つか挙げられてお話いただきました。そのなかには市民の権利、「協働のまちづくり」という時代的な背景、市民がこれからどうやっていくべきか、市民の権利に対する市民の義務のことも話しにあったかと思えます。また住民組織の中の一番小さなセクターである自治会のあり方、それから、住民自身が地域計画を作成するにあたって、実際に実行する場合にどうなっていくのか、また山口市の場合、広域合併を1市4町のもとで行ったが、今は5つの地域に審議会を持っているが、旧山口市も旧4町と同じように1つの審議会でのいかどうか。それから、私たち市民が市政に参加するという事で、従来の市議会の議員</p>

さんたちの役割と、私たちのような市民の側がどのような形で関わっていくか。最終的には住民投票を条例の中に入れるかどうか。大まかにまとめると、以上のような内容のことを市長が期待、ないし課題として述べられたように思います。その後で課長さんのほうから、まちづくり条例の基本的な主旨について話がありました。

今日の第二回目の会議の予定を内容的に言いますと、最初に、「これからの市民会議の運営方法」について会長、副会長のほうから提案をしたい。それから、この案を検討していただいた上で、次に「まちづくり」をテーマにしたグループ討議をする。そして、その後全体の発表、そしてまとめをする。これが本日の会議の内容です。皆で何か一つ思い描いている「まちづくり」について出し、全体で一つの成果を出してみるところあたりが今日の課題ということになるかと思う。この他、事務局のほうで何か付け加えることがありますか。

<事務局>

会議録の署名についてお願い（清水委員と渡辺副会長）

2回目からは議事録を簡略化することの説明（委員了承）

## 【2 市民会議の運営方法について】

<会長>

市民会議の運営方法については、私と両副会長さんの三人で、「プロセス会議」を事前に二回行った。このプロセス検討会に基づいて提案する。渡辺副会長から、説明をお願いします。

<渡辺副会長>

プロセス検討会の姿勢としては、公募委員さんが20名いるので、そこの意義を大切にしたい。ボトムアップで市民の視点を大切に、その積み上げの中で条例全体のバランス、漏れた視点などが無いかというトップダウンによるチェックしたい。大まかな流れとしては、20年度の12月議会に上程するという目標にして組んだ。皆さんに信頼してもらえるプロセス検討会という形で進めていきたい。

○各回の予定

資料2の説明

大体月に二回くらいの会議は必要。

その後は、パブリックコメントやまちづくり審議会の意見を聴きながら、本当に機能するものになっているかをチェックしていく。自主勉強会をこの9月に入れる。皆のアンケートや前回の意見で不安要素が多く出ているので、それをクリアしていけるようプログラムを考えたい。

○運営方法の確認

限られた2時間の中では積み上がらない部分などあるので、グループ討論とか、アンケート等も大切な情報源として反映していく。アイデアや企画書みたいな宿題が出る場合もある。全体会議の内容は即興記録を行い、内容を共有していく。それから、私たちの役割として、市民へのメッセンジャーということを前回は言われた。市民会議の様子をわかりやすく市民に伝えていく広報も大切な役割。そこでわかりやすい「かわら版」を作成していく。詳細の会議録は、市のホームページで公開していく。

- ルールについて  
資料3の説明

- 役割分担  
資料2の説明

市民委員の皆さんで条例作成の経験者が4名、市民会議とか審議会とかの山口市の委員会に初めて参加される方が7人。これはかなり温度差が出てくると思うが、温度差があることが市民の方に広めていくときに、色々な立場の人に対して、それぞれ役割が出てくると思う。そのへんの強みをしっかりと活かして、市民会議が一つのチームとして、それぞれが理解してもらえそうな会議になるといいと思う。

- 市民会議の目的  
資料2の説明

#### <会長>

検討プロセスについて、何か意見等はないか。

自主勉強会など膨らむ部分があったりするかもしれないが、今後の段取りはこのぐらいという形で承認していただきたい。

市民会議の基本的な運営上のルールは、これに沿った形でいきたいと思う。

かわら版の作成は、市民会議がこの会議だけで解決するのではなくて、会議が同時に市民に向けて発信しながら行う必要があるのでやりたいと思う。広報担当者は、大体3名くらい。大変ですが、どなたかおられないか。

#### <渡辺副会長>

皆さん忙しいので、できるだけ負担をかけないように工夫する。会議が終わった後に、そのメンバーで30分くらい話をし、内容やレイアウトを決める。データが必要なところは協働推進課に準備してもらおう。3人いるのでレイアウトの担当は3回に1回くらい。組み立ては皆で相談するが、紙面は交代で作る。ボリューム的にはA3両面、A3二つ折で両面かA4の4ページくらい。

< A委員 >

見出しは皆で考えるわけですね。

< 副会長 >

そうです。もちろん会長にも相談する。

< 会長 >

さきほど自主勉強会ということが出たが、9月に予定しています。これは委員の任意でやろうと思う。大体2日間くらいのかかなり濃い内容の予定。

< 事務局 >

内容は会長・副会長と相談のうえ、土曜日、日曜日を中心に日程調整する。

< 会長 >

我々の自主的な勉強会ですので、手当等はない。

< B委員 >

自主勉強会の件で、メニューがとても多いがこれを全部9月にやるのか。これに参加できる人とできなかった人で温度差が出るが、フォローしてもらえるか。

< 会長 >

資料をきちんと渡して、その中である分からないところは聞くなり、時間的に余裕があれば要約版を作ってもいいと思う。全員といっても忙しい方たちが集まっているので、全員が出来るということにはならないと思う。そのあたりのことは、温度差がでないように工夫したい。

< B委員 >

昼の部、夜の部で分けてほしい。9月は行事がたくさんあって、空いている日がほとんどない。

< 会長 >

連続土、日というよりは、少し離れたほうが良いと思う。どちらかには最低出られるという形にしたいと思います。

事務局、何かあるか。

< 事務局 >

来週火曜日くらいまでには調整したい。参加出来ない委員についてはフォローができるようにしたい。

<C委員>

条例の仕上げは、来年の3月ということで8ヶ月あるが、市民会議は月2回ということか。

<会長>

忙しい時期になると、2回以上ということもある。

<C委員>

毎月、必ず2回あるという意味ではなく、内容によっては、月2回開催されることもあるということか。

<会長>

はい。

<委員>

わかりました。

<D委員>

資料2ですが、11月の終わりから1月の始めくらいの中に1回ということはないのか。2回か、3回ということか。

<会長>

「〇」が入っている部分は、場合によっては二つに分かれる可能性がある。会議の進行状況にもよる。基本的に3月までという時期があるので、必要に応じて会議を開催していく。

<D委員>

結局、固定したものではなくて、変更がありうるという事ですね。今度は右側の部分ですが、プロセス検討会の縦の部分。パブリックコメントの下に「まちづくり審議会」というのがある。ここから総合計画の素案も出ている。この資料は、策定に関係する委員は持っているが、そうでない方には事務局のほうから早めに渡してほしい。両方の答申案は足並みを揃え、相反するものは出せない。これは非常に大切なことだと思う。

<会長>

まちづくり審議会にも当然関係してくるので、資料とか見てきちんと話していきたい。もっと詳しい内容がほしいという人については事務局に依頼したい。

<E委員>

広報のところで発言する。今は「かわら版」を作るのと、市のホームページで公開するというにしている。私は市民ディレクターとあって、市民の視線で映像をカメラで撮影、編集を個人的に市民活動団体がやっている。せつかくこういう場があるので、市のほうでビデオカメラ、テレビやテープ等を用意してもらえれば、要所要所で動画というものを記録として残していけたらと思う。静止画では伝わらない部分というのが、動画にはあると思う。それは自分も編集してきて思う。ぜひ検討していただきたい。温度差が生まれるとのことだが、その部分を少しでも距離を縮めることができる手段になるのではないか。

<会長>

積極的なかたちで検討したいと思う。ケーブルテレビで放送してもらおうとか、色んな手はあると思う。

<F委員>

まちづくり審議会等の方針とか、従来の条例との関係とか、法律との関係とかに全く反する条例ができるのは問題。これをしっかり把握していくことが最初に必要。自主勉強会の最後のところで、各地の条例というのがあるが、これらを参考にしていく必要がある。それから、自主勉強会ということで何が出てくるかということが心配。第3回のところに「まちづくりの課題の整理」と載っているが、課題の整理というのは自主勉強会で課題があがってくるのかどうか。どこに課題が、どういう形で、どのくらい出てくるのか曖昧な感じがする。その課題抽出が、自主勉強会だけ良いのか。課題というのはしっかりとしたものではないといけない。自主的に出た課題だけで良いのか。この委員会というのは、行政が提案されたもの。行政が問題になっている点があるから、こういう委員会を設定されたはず。それを自主自主といくと、肝心なところが抜けるという気がする。

もう一つは委員が個人的に持っている課題があると思う。その思いをどこで、どういう形で出すことができるか。従来の他の委員会は、骨組みが大体出来たのを、「いいでしょうか」と、「はい、いいですよ」というのが多かったが、今回はそうではないというのが前提。このあたりが大変心配。押さえるべきところは行政のほうで、初めから検討事項を提案してもらいたい。でないと、お友達のような会議になってしまうような気がする。条例というのは、もう少し厳しい気持ちで取組まないといけないのではないか。

<会長>

基本的に私たちのほうから提案したり、考えたり、その中で従来型の「まちづくり」の大事なところというのは、当然私たちも考えていくし、行政がやってこられたことを全く無視するわけではない。市民側が出ていって、自分たちの身の丈で考え、新しい条例をつくって、当然それは自分たちで守って行政と一緒にあって「まちづくり」をやっていく時代になったというあたりで提案が出てきていると思う。行政のほうから、検討事項が出れば、従来型の条例案の作成と同じ。私も今までの条例のつくり方というのは、県庁でやっ

できたこともあり知っている。やはり、時代が変わってきている。

< F 委員 >

「まちづくり基本条例」の制定という中では、課題は重要な部分だと思う。色々な面で自治体経営というのが難しくなっている。税制改革ということもある。山口市の場合には合併して、一つの大きな区域の市になった。旧何々町ということは取り除いて、市民の力で「まちづくり」を進めていくということが基本的には大事。そういったことを合わせて、基本理念と自治体経営を合わせて将来の都市像ということが課題になると思う。従来から3回、市民の意識調査が行われている。その集計結果には、希望、夢を託す形が非常によく表れている。条例策定にあたり、大多数の方がどんな考えを持って、望みを託しているのか。託すというのは我々に託しているわけなので、真剣に考えて、それに答えるべく作っていく必要がある。機会があれば、よく精査して道にのせるということ。市の部分と町の部分と、課題がそれぞれ違うのは当然。それを一つの文章にまとめるのは非常に困難だが、きめ細かに、よく調査した上で可能かどうかとも検討していく必要がある。

それから、この条例が出来た後、条例が一人歩きしないようにしなければいけない。一人歩きしないというのは誰がするのかというと、市民がする。委員がするのではない。市民の考えが一つにまとまってやっていくという、これが市の職員の方との一つの協働というカタチがとれると、そして多くの方に賛同され一緒に汗を流していただいて山口市の将来像を作り上げていく。条例をやればそれを動かす組織も必要ではないかと思う。

< 会長 >

課題というのは議題の3か4に挙がっているが、課題は今日の話の中にも出てくると思うし、4回目も6回目も出てくると思う。したがって、自主勉強会で言われたものをそのまま課題にするのではなく、色々な地域の人とのかかわり版を通してのコミュニケーションが必要。プロセスの中で課題が新しく加わってくることもあるかと思う。今のところは便宜的には3回目から、少しずつ考えていこうと思う。課題は相当あると思うが課題だけで終わることはできないので、どこかで締め括って次の段階にいかないといけないので、こういうスケジュール表になっている。

### 【3 グループ討議 テーマ「まちづくり」】

< 会長 >

もう一つの本題のほうに入る。グループ討議について、渡辺副会長から説明してもらおう。では、先にグループ分けをする。

< 渡辺副会長 >

先に3つのグループに分けたい。事務局、グループ分けは決まっていますか。

< F 委員 >

すみません。このグループ分けは、いつかはこういう形になるかと思うが、この前の会議では、会長からそんなに急がないというお話だったはず。そのあたり事務局との連絡が上手くいってないのではないかと。まだ、課題が出てないのでよく分からないが、課題が30も40も出たとして、この分野は非常に興味があると、あるいはこれを今まで勉強してきたと、これをやりたいとそれを活かしてグループを作って、日頃勉強したこと、これから勉強して会議を進めていくと、こういう手順のほうが良いのではないかと。これは、押し付けのような気がする。

<会長>

これはプロセス会議で、事務局の承認の上でやっている。私たち3人のほか事務局とも話しをしているので、勝手に私たち3人だけで独走して作ったわけではない。そこは、理解してほしい。今日の狙いというのは、今どういう事を皆で思っているのか、それから出発してみようということ。3班に分かれて私と副会長2人がリーダー役となり、班ごとにワークショップのような形でその中で課題を皆で出し、まとまった物を発表してもらおうという形で考えている。ワークショップばかりではマンネリ化するとは言っているが、まずワークショップ形式でグループ討議をしながら議論をしてみるということで、最初にこのような形とした。ご理解してほしい。

<渡辺副会長>

前回、今回を通して、意見を述べられてない方がたくさんいる。場慣れしている方と、そうでない方というの出てくるので、そういった点を踏まえてグループワークは要所要所に入れていきたいと思っている。押し付けと言われれば、そのとおりかもしれない。しかしグループワークのほうが話し易いという人がいるのも事実と思うのでこれでいきたい。今日のプログラムは、そうなっているのですみません。

<F委員>

先ほど言ったように、課題をこれからどういうふうに振分けていくのか、全く自分の関心のない課題が入っていくとか、あるいは全く同じことばかりやっていくのか。

<渡辺副会長>

いえ。今の状況では、キーワード別に自分が主体的に興味のあるところに関わってもらう予定にしている。その主体的な意識というのは大事にしていきたい。

<F委員>

ぜひ、それをお願いしたい。今日は仮にこういう形としても、課題が決まったら、班の組み替えも、やはり柔軟に対応していただく必要がある。

<渡辺副会長>



そうですね。皆さんが今までの活動で感じているものをどこで出すのかという意見があったが、一応4回目あたりでアイデア出しなどを考えている。今日は課題よりも理念部分の共有、それから委員の皆さんが条例をつくるにあたっての自分たちのメッセージ部分の基になる意見をたくさん出してもらおうと思っており、限られた時間でやっていくには、そのほうがたくさん意見が出ると判断している。

< F 委員 >

今、そこで4回目に出されるということに疑問を感じている。3回目に我々の持っている課題が既に出てないといけないと思う。

< 渡辺副会長 >

そうですね。課題は出てくるが、皆さんに伺いたいのは、どちらかという解決に向けてのアイデア、今までの経験、こうしたほうが良いのではないかと、そこをやっていこうと思っている。

< F 委員 >

それは、全然わからない。課題が全然無いのに解決の仕方とか、皆さんの経験を活かして下さいとか、融通がきかないような話ではないか。どういう課題があるかと、その課題について1ヶ月ゆっくり考えて、調べてくる。その課題が出てこないと考えようがないのではないか。

< C 委員 >

言葉を返すようだが、今日グループ分けが早すぎると言われればそのとおりだが、いずれはグループ分けを実践するでしょう。3グループが一つの同じテーマで検討して行って、そして結論を出して最終的に会長さんのほうでどういうふうにするか結論を出していただくということ。これは、前回は何も異論は無かったように私は解釈している。今日スタートしてこれからどういうことを検討していくかを、グループで検討しテーマを絞ってやっていくのではないかと。私は、今までこのように理解している。

< F 委員 >

そのとおり。でも、それは課題が非常に少ない場合はそれでいい。課題が二桁になった時に、皆が同じ事をやれば、とても消化できないし、あるいは自分の専門でないものは面白くない。課題別に分野を決めて議論すべき。この前言われたことは覚えている。課題がいくつ出るかわからない。非常に少なかったら、C委員さんの言われるとおりで良いと思う。

< G 委員 >

「良いまちづくりにしよう」とか「楽しいまちづくり」にしようとか、そういうので「ま

ちづくり市民会議」がある。そして知恵を絞ったり、アイデアを出したり。課題を出すのは私たちなので、そういう課題を出すのも作戦を立てるのも、全てブレインストーミング方式をとっているが、ワークショップはとても良い、効率の良い知恵が出る。このまま進めていったほうが良い。

<会長>

事務局の方、何かありますか。

<事務局>

課題について、少しコメントさせて欲しい。いわゆるハードの都市計画、あるいはそれに乗る教育福祉、そういうソフトのまちづくり計画は、皆さんの集まりではない。したがって、課題というのが福祉問題とか交通問題とか都市計画とか地域の具体的振興策とか、そういうことを議論してもらい得意分野の課題で分かれてもらうのではなく、いわゆる市民協働の新しいまちをつかっていくために、市は行政は誰のためにあるのか。それは市民のためにあるのだと。そうするとどういう問題が出てくるのかと言うと、今までは市長を選び議会が色々と動いているが、市民の直接参加はどうあるべきなのか。あるいは、行政における必要なパブリックコメントはどう手続きをとるのか。地域活動というもののある程度行政から離れて自主的に地域活動をどういうふうに展開していくのか。このような手続き論が課題になる。ここに公園をつくるとか、環境の良いまちをつくるとか、こういう交通ルールをつくるとか、そういう課題ではないので、そこのところは間違いのないようにお願いします。

<F委員>

それは当然分かっている。やはりソフト面ということでこの会議に参加しているわけです。ソフトの分野も随分違うと思う。そのソフトの中で、例えば自治会の分野とかスポーツの分野とか、文化の分野とか、福祉の分野とか、全て違うと思う。専門性というものがあるって、私は応募したつもり。なんか存在感が薄れてくるような気がしてならない。

<G委員>

専門的なことの話になる前に、グループ討議ですか、それがまず大事なのでこのまま進めてほしい。グループ討議をお願いします。

<会長>

いいですか。では、進めます。

<渡辺副会長>

では、グループ分けに協力して下さい。

時間がおしているので少しプログラム変更をする。グループワークの説明をする。まず

は、グループのメンバーに自己紹介を1分をお願いします。誰かグループ内でタイムキーパーをお願いします。テーマは「原風景、子供の頃どんな事をして遊んでいたか」ということ。それが終わったら「まちづくり」と聞いてイメージするもの、考えておくべきもの、大切にしたいものとかを5分間で付せんを書いて、後はグループ内で発表していくという流れ。準備が整ったら始めて下さい。最終的にどんな話が出たかという事を発表することで、各グループで共有をはかりたいと思う。正副会長が流れを把握しているので、後は皆さん協力し合ってください。

#### 《グループ討議》

#### 【4 全体発表 まとめ】

<副会長>

すいません。皆さんの意見が出てくれば、最終的な形ができてなくてもかまわないので、あと5分くらいでまとめてほしい。

では、Bグループから発表をお願いします。

<Bグループ> まちづくりのテーマ＝「活力あるまちづくり」

Bグループのテーマは「活力あるまちづくり」ということにみんなの関心が集中した。山口の文化、歴史を大切に、変化する文化芸術を古いものから新しいものへと繋げていく。山口らしいまちなみを整える。そして「人づくり」とあるが、子供から大人までまちづくりに皆が参画できるようにする。「思いやり」を持って隣人、訪れた人に優しく声をかけあえる関係をつくり、「コミュニティ」のあるまちづくりをしていきたいと思う。そして、魅力的で新鮮な驚きのある山口へ変化していくことで、県外からたくさんの人が遊びに来、また移住することで人口が増える。そのためには山口ももっと便利に、新幹線駅なども考え世界中から人が集まる様な魅力あるまちづくりにしたいというBチームの考えです。

<Aグループ> まちづくりのテーマ＝「笑顔で安心して暮らせるまち」

Aグループのテーマは「笑顔で安心して暮らせるまち」。そして「まちへの愛着」だが、文化、人材育成、経済活動、福祉、安心安全、交流、行政が全てがまちへの愛着という事で繋がっている。ハード面はこれらの実現のために整備されていく。経済活動により大企業を誘致して市内にもサッカーチームや野球チームをつくる。それから大学・短大が市内にあるので子供たちにはそこに進学をすすめ、県内に就職することで人口減少を食い止める。福祉は赤ちゃんや子供、お母さん達のための居場所づくり。老人や子供への気配り。安心安全では、最近はメールや、携帯、電話などの顔が見えない付き合いが多いので、顔見知りの関係をつくる。交流は住民が楽しいと思えることを調査し、イベントなどができる場所作り。そのための人材育成が必要。ソフト面では、山口市はたくさんの歴史的遺産があるので文化歴史への意識を高める。住民の参画では山口市民であるという自立した考え方を盛り込んでまちづくりに参加する。行政は、市民が望んでいるサービスの向上に応

え、年金、税金の負担を軽減し住みやすいまちにしてほしい。

<Cグループ> まちづくりのテーマ＝「山口らしさの再発見」

「山口らしさの再発見」というのがまちづくりの大前提。小さな家族の単位からスタートして自治会などを通じて色々なコミュニケーションの形がある。その土台は弱者の視点、平等意識、意見を出し合って共有するということを基本に山口らしさが発揮できるのではないか。また次世代を見出せるようなそういった山口らしさを再発見する。山口にはハードソフトともにいろいろなお宝がある。これらを土台にしていろいろなしかけをしていく。まちづくりは人づくり。人が集うところには元気があって笑顔がある。このようなまちづくりが基本になる。最後に一番大事なのはお互いにいいところを探しあうとか、考える、発見するというのが、まちづくりの前提になり、そのためには自治会（小さな政府）のところで、お互いの共通認識をもつことが必要。山口らしさを出したいというみんなの思いだが、山口らしさは住んでいる人が自分らしさを出せてはじめて山口らしさを出せる。そのためには家族とか自治会の中で自分の意見を言えるようなルールがあることが大切。

<会長>

はじめての方や何度も経験された方もいると思うが、これがワークショップの手法。参加しながらいろいろな山口市のまちづくりで必要なことが出てきたのではないかと思う。大学では学生に最後にどれがよかったかと話させるが、今日はあえてやらない。今日はそれぞれ面白いところがあった。Cグループは単語が少なく手馴れた人たちが作られたようだ。Bグループは「思いやり」というキーワードが出ていて面白い。Aグループは人数も多かったこともあって色々な視点が出てきていて「笑顔で安心して暮らせる」という視点がよかった。

今日のワークショップではいろいろな課題が出てきたのではないかと思う。これを勉強会を間に入れていくことで、どこが大事なのか、というのが次第に明らかになっていくものと思う。

次回の予定について事務局説明をお願いします。

#### 【5 次回の開催について】

<事務局>

- ・自主勉強会の日程調整
- ・第3回目の開催について

日時 9月28日（金） 18時30分～

場所 山口総合支所第10・11会議室

<会長>

事務局その他付け加えがあるか。

<事務局>

	<p>自主勉強会の関係はメールまたは郵送で日程の調整をさせていただきたいと思う。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p> <p>会議の経過を記載し、その内容に相違のないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>署名委員                    清   水   春   治</p> <p>署名委員                    渡   辺   洋   子</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レジユメ</li> <li>2 協働のまちづくり市民会議（資料1）</li> <li>3 市民会議プロセス案（資料2）</li> <li>4 市民会議の会議運営上のルール（資料3）</li> <li>5 グループ編成表（資料4）</li> </ol>
<p>問い合わせ先</p>	<p>自治振興部協働推進課協働推進担当</p> <p>TEL 083-934-2965</p>